

ただいま
活動中

育児サークル ももの会

親子みんなの交流の場として。

平成5年、川島地区を中心とした親子の交流の場として発足。室内遊び、公園遊びの他、ミニ運動会やクリスマス会などを開催。月1回会報誌を発行。

対象: 入園前の子どもを持つ親
場所: 川島地区市民センター他
活動日: 火曜日10:30~11:30 (8月休)
会費: 1家族200円/月
連絡先: ☎21-9866
(押領司(おしりょうじ)真里)

親子で煮詰まらない特効薬

「近くに育児サークルはありませんか」。子どもセンターに寄せられるお便りに、時々こんな文面を見かけます。親が子どもをいっしょに遊ばせる育児サークルは、親子で煮詰まらないための特効薬であります。しかし数は少なく、どこにでもあるというわけではありません。今回は、「近所にならぬら、私達がつくろう」と、10年前に2人のお母さんが立ち上げ、今も続いている「育児サークルももの会」をお訪ねし、発足のエピソードを交えて、お話をお聞きました。

私達が訪れた5月20日は、川島地区市民センターで、子どもの手形とりをしました。絵の具を手のひらにつけ、紙の上にペタンコ。かわいい手形のできあがり。来年の3月に再び手形とり、成長の記念にするのだそうです。現在会員は親子合わせて25名。入会のきっかけをお聞きしたところ、近所の口コミやインターネットでの検索など様々でしたが、その奥にある、親も子も近所にお友達を見つけたらいいという思いは同じでした。「この辺は子どもが少ないので、近くに子どもの遊び友達を見つけるのは大変ですが、私達母親も同じです。お母さんってみんなそうじゃないかなあ。よそから1人で嫁いでくるのだし、夫の転勤で知らない土地へ引っ越ししたり…。今や会員の親子にとってなくてはならないこの会を立ち上げた高島直子さんも、当時同じ悩みを持っていたようです。



1人の夢が大きな力に

「育児サークルをつくってお母さん達の交流の場にしたい」。そんな夢を、ある日、越してきて間もない近所のお母さんに話してみたのです。まだ親しい仲ではなかったのですが、この人ならわかってくれそう…と感じさせるものがあつたのですね。高島さんのサークルづくりは、まず身近な人に自分の思いを伝えることから始まりました。1人が2人に、そして、地区市民センターや社会福祉協議会の会長さんに相談するなど、地域の人を取り込んで、支援の輪を広げていったそうです。「人形劇観賞、運動会…『とにかくやってみよう。やっていればそのうち仲間は増えてくる』そんな大らかな気持ちで、最初に年間行事を立てました」。その予想どおり、手づくりチラシや口コミで、会員はしだいに増えていったそうです。発足当時の思い出を語る高島さんの楽しそうな表情に、サークルづくりは難しく大変だというイメージがどんどん変わっていくのを感じました。

それから10年。1人のお母さんの夢が、今も多くの母親の心の支えになっています。「何をしようか話し合ったり、行事の準備をしたり、共同作業をすることが、知らない人同士親しくなるコツですね」。経験から得た彼女の言葉に、育児サークルの楽しさの秘密を知った思いでした。



もりあがると、隣の公園で1時間以上は延長しておしゃべりをするというお母さん達…。これで育児ストレスも解消ってワケね。ホントに楽しそう。